

第9節 体 育

第1 体育科の基本事項

体育科は、スポーツを通じた専門教育の学習を希望する生徒が、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身を育成するとともに、生涯を通してスポーツと多様に関わり、スポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指している。

体育科設定の具体的なねらいは、次のとおりである。

ア 専門学科「体育」の各科目の学習を行うことによって、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、健やかな心身の育成を図るとともに、生涯を通してスポーツを継続する資質・能力を高め、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うこと。

イ 選択した科目の学習や課題研究等によって、「する、みる、支える、知る」などのスポーツへの多様な関わり方を自ら実践するとともに、我が国におけるスポーツの推進及び発展の担い手を育成すること。

1 改訂の趣旨

平成28年12月の中央教育審議会答申においては、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として整理されている。また、「専門教育に関する各教科・科目についても、専門分野ごとに求められる資質・能力を、関係団体等との間で共有しつつ、三つの柱を踏まえて各教科・科目の位置付けを明確化し、目標を示すこととする」と示されている。

一方、普通教育の体育科、保健体育科においては、12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容と内容の取扱いの充実及び指導内容の一層の明確化などを共通の視点として改善を図る中で、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができるよう、目標や内容等の改善を図った。

以上の専門教育に関する改善及び普通教育の体育科、保健体育科の改善の方向性等を踏まえた体育科改訂の方針は次のとおりである。

① 体育科で求められる資質・能力を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学び

に向かう力、人間性等」(資質・能力の三つの柱)の育成を重視し、体育科及び各科目の目標と内容の構造の見直しを図ること。

② 「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しみ方を実践する資質・能力の育成を重視する観点から内容の充実を図ること。

③ 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成を重視する観点から内容の充実を図ること。

2 改訂の要点

(1) 目標の改善

専門学科「体育」の目標については、資質・能力の三つの柱を踏まえて示すこととし、具体的には、スポーツへの多様な関わり方についての理解と実践及び生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身に付けることを重視した。

また、これらの資質・能力を通して、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするのが大切であることを示した。また、従前、スポーツの「振興発展」としていたものを、スポーツの「推進及び発展」とした。

(2) 内容構成及び内容等の改善

各科目の内容構成については、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に沿って示した。

また、「スポーツⅠ」から「スポーツⅥ」の内容に「多様な関わり方」を新たに示し、スポーツの楽しみ方を実践する資質・能力やスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成を目指すとともに、スポーツを通じた共生社会の実現に寄与する視点を重視した。

- ・「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しみ方を実践する資質・能力の育成の重視
- ・生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成の重視

ア 「スポーツ概論」

- (1) スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展
- (2) スポーツの効果的な学習の仕方
- (3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方
- (4) スポーツの多様な指導法と健康・安全
- (5) スポーツの企画と運営

イ 「スポーツⅠ」

- (1)採点競技への多様な関わり方
- (2)測定競技への多様な関わり方

ウ 「スポーツⅡ」

- (1)ゴール型球技への多様な関わり方
- (2)ネット型球技への多様な関わり方
- (3)ベースボール型球技への多様な関わり方
- (4)ターゲット型球技への多様な関わり方

エ 「スポーツⅢ」

- (1)武道への多様な関わり方
- (2)諸外国の対人的競技への多様な関わり方

内容の取扱いに、空手道、合気道、少林寺拳法、銃剣道も適宜取り上げることができる。

オ 「スポーツⅣ」

- (1)創造型ダンスへの多様な関わり方
- (2)伝承型ダンスへの多様な関わり方

カ 「スポーツⅤ」

- (1)自然体験型の野外の運動への多様な関わり方
- (2)競技型の野外の運動への多様な関わり方

キ 「スポーツⅥ」

- (1)体づくり運動への多様な関わり方
- (2)目的に応じた心身の気付きや交流を深めるための運動の仕方
- (3)ライフステージ及びライフスタイルに応じた体操や運動の計画の立て方

内容の取扱いにおいて、(2)及び(3)はその次の年次以降で取り扱うこととする。

ク 「スポーツ総合演習」

- (1)スポーツの多様な理論や実践に関する課題研究
- (2)スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究
- (3)スポーツを通じた多様な社会参画に関する課題研究

(3) 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱いの改善

ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

体育科の指導計画の作成に当たり、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することとし、体育科の特質に応じて、効果的な学習が展開できるように配慮すべき内容を新たに示した。

イ 障害のある生徒などへの指導

障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の

工夫を計画的、組織的に行うことが大切であることを示した。

3 体育科の目標及び科目編成

(1) 体育科の目標

体育科の目標は、専門教育を主とする学科としての果たす役割を総括的に示したものである。

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) スポーツの推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通してスポーツを継続するとともに、スポーツの推進及び発展に寄与することを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

(1)は、体育科における知識及び技能の目標を示したものである。(2)は、体育科における思考力、判断力、表現力等の目標を示したものである。(3)は、体育科における学びに向かう力・人間性等の目標をそれぞれ示したものである。

(2) 科目編成と標準単位数

体育科の科目の編成は、理論及び課題研究に関する科目とスポーツに関する科目に大別した上で、理論及び課題研究に関する科目は、「スポーツ概論」、「スポーツ総合演習」で示し、スポーツに関する科目は、スポーツの特性や魅力に応じて「スポーツⅠ」から「スポーツⅥ」で示している。

科目	標準単位数
スポーツ概論	3～6
スポーツⅠ	2～12
スポーツⅡ	2～12
スポーツⅢ	2～12
スポーツⅣ	2～12
スポーツⅤ	3～6
スポーツⅥ	3～6
スポーツ総合演習	3～6

第2 各科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

※柱書については、以下の各科目に共通しているため記載を省略する。

「スポーツ概論」

- (1) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。
- (2) スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。

「スポーツⅠ」

- (1) 採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- (2) 採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

「スポーツⅡ」

- (1) 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- (2) 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

「スポーツⅢ」

- (1) 武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- (2) 武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

「スポーツⅣ」

- (1) ダンスの推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- (2) ダンスにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) ダンスの学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

「スポーツⅤ」

- (1) 自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- (2) 自然との関わりの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

「スポーツⅥ」

- (1) 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- (2) 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

- (3) 体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

「スポーツ総合演習」

- (1) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。
- (2) スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組む態度を養う。

こと。

- (4) 集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方については、各科目の特性との関連において適切に行うこと。
- (5) 各科目の指導に当たっては、その特質を踏まえ、必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高めるようにすること。
- (6) 学外の認定資格等の取得と関連付けるなど、より専門的かつ実践的な知識及び技術の習得が図られるようにすること。

第3 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画作成上の配慮事項

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう留意すること。
- (2) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

2 内容の取扱いに当たっての配慮事項

- (1) 各科目の指導に当たっては、公正、協力、責任、参画、共生に対する意欲及び思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、生徒の健康・安全を確保し、事故防止を図ること。
- (2) 「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「スポーツⅢ」及び「スポーツⅣ」の指導に当たっては、「スポーツⅥ」の学習成果の活用を図ること。
- (3) 体力の測定については、計画的に実施し、各科目の指導及び体力の向上に活用するようにする

専門教科の体育科の科目構成及び内容と内容の取扱い

(表1)

科目及び内容	内容の取扱い			
	入学年次	その次の年次	それ以降の年次	各科目
【スポーツ概論】	必修	必修	必修	(1)～(5)必修
(1) スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展				
(2) スポーツの効果的な学習の仕方				
(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方				
(4) スポーツの多様な指導法と健康・安全				
(5) スポーツの企画と運営				
【スポーツⅠ】	スポーツⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳから①以上選択	スポーツⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳから①以上選択	スポーツⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳから①以上選択	(1)又は(2)を選択
(1) 採点競技への多様な関わり方				
(2) 測定競技への多様な関わり方				
【スポーツⅡ】				
(1) ゴール型球技への多様な関わり方				
(2) ネット型球技への多様な関わり方				
(3) ベースボール型球技への多様な関わり方				
(4) ターゲット型球技への多様な関わり方				
【スポーツⅢ】				
(1) 武道への多様な関わり方				
(2) 諸外国の対人的競技への多様な関わり方				
【スポーツⅣ】	(1)又は(2)を選択			
(1) 創造型ダンスへの多様な関わり方				
(2) 伝承型ダンスへの多様な関わり方				
【スポーツⅤ】	必修	必修	必修	(1)又は(2)を選択
(1) 自然体験型の野外の運動への多様な関わり方				
(2) 競技型の野外の運動への多様な関わり方				
【スポーツⅥ】	必修	必修	必修	(1)は入学年次(2)及び(3)はその次の年次以降
(1) 体づくり運動への多様な関わり方				
(2) 目標に応じた心身の気付きや交流を深めるための運動の仕方				
(3) ライフステージ及びライフスタイルに応じた体操や運動の計画の立て方				
【スポーツ総合演習】	必修	必修	必修	(1)～(3)から①以上選択
(1) スポーツの多様な理論や実践に関する課題研究				
(2) スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究				
(3) スポーツを通じた多様な社会参画に関する課題研究				